

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	4171700182
法人名	有限会社 ライフケア
事業所名	しきぶの里
所在地	佐賀県嬉野市塩田町大字谷所甲2385-1 (電話)0954-66-2970

評価機関名	佐賀県社会福祉協議会		
所在地	佐賀市鬼丸町7番18号		
訪問調査日	平成20年10月27日	評価確定日	平成21年1月6日

## 【情報提供票より】(平成20年10月11日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成 17 年 10 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 9人, 非常勤 0人, 常勤換算 9人	

## (2)建物概要

建物構造	木造平屋建造り
------	---------

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	25,000 円	その他の経費(月額)	15,000 円	
敷 金	有(100,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無		
食材料費	朝食	250 円	昼食	450 円
	夕食	450 円	おやつ	実費 円
	または1日当たり 円			

## (4)利用者の概要(10月11日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	1 名		
年齢	平均 82 歳	最低 74 歳	最高 92 歳		

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人陽明会 樋口病院 くりやま歯科医院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

地域との結びつきが濃いグループホームである。山里近くに位置するが、周辺には民家が点在し、それだけ、地域住民との結びつきが深い。地域住民やボランティアの訪問も多く、地域の福祉交流の場ともなっている。日頃の介護にあたっては、入居者の自尊心や人格を尊重しながら、同じ家族の一員の様な心で支援している。職員は待つ事を基本にして、笑顔で接している。そのため、入居者の表情も豊かで、ゆったりと一日を過ごしている。家族も面会等に行きやすい雰囲気があり、家族からの相談や要望にも真摯に答えている。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	「災害対策」についての取り組みを全職員で検討し、運営推進会議にも諮っている。その結果、地域の方々や消防団も参加した。避難誘導訓練が実施できている。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票を全スタッフが各人記入することによって、日常の介護について自分自身を見つめ直す機会としている。また、全職員で検討することによって、サービスの質の向上に活かしている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	サービス提供の状況報告と運営推進会議からの評価、委員からの質疑や意見、要望が主な議題である。地域住民と地元消防団が参加しての避難誘導訓練も会議で話し合わせ、実施された。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	何よりも話しやすい雰囲気づくりを心がけている。家族の面会時や行事開催の折りに、個別に面談の時間を設け、相談にのったり、要望を出してもらっている。家族会も組織されている。意見や要望等は職員全員で検討し、運営に活かしている。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	近所の方が野菜や花を持って訪れたり、老人会の帰りに老人会会員が立ち寄ってお茶を飲みながら、入居者と談笑したりしている。自治会にも進んで加入した。職員が地域に出かける機会も多く、奉仕作業や地域の行事にも参加している。地域からの認知症に関する相談にも対応している。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	地域密着型サービスの基本方針を全職員と話し合っ創りあげている。地域との関わりについては「地域の人々との交流」「かつて持っていた人間関係や交流」等、5項目をあげている。		
	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	勉強会や日々の支援を通して、具体的な形で理念を共有している。また、職員一人ひとりがそれぞれ自分の理念を持ち、入居者と豊かな人間関係を保ちながら、介護、支援にあたっている。		
2. 地域との支えあい					
	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の自治会に加入している。奉仕作業、運動会、老人会活動等にも参加し、地域老人会の会員が立ち寄ってお茶を飲みながらの交流もある。回覧板も回ってきている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の評価にあたって、自己評価表を職員各自がそれぞれ記入し、自分自身の反省資料としている。また、各自の評価を持ち寄って全員で話し合うことによって、更に質の高いサービスを目指している。		
	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	より活発な意見交換の場となるように推進会議前に、議題をお知らせするなどしている。会議では日々の取り組み状況等の報告だけでなく、地元との交流のあり方を話し合っている。地元消防団や近所の方々が参加しての避難訓練も会議の結果、実施できている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	行政の福祉関係担当者と顔なじみになることを心掛けている。保健師との交流や介護相談員の受け入れなど、サービスの質の向上について話し合う機会がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月、個人毎に家族へ便りを出し、日々の暮らしぶりをお知らせしている。便りは写真を豊富に掲載し、具体的な暮らしぶりをわかりやすく伝えている。健康状態も面会時や電話で伝えている。金銭管理も収支の報告がなされている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望や意見等が言いやすい雰囲気があり、面会時や行事参加の折に家族も気安く相談している。要望等には全職員でよく話し合っ、それに応える様になっている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	自己都合の退職が若干あったが、開設以来職員の顔ぶれはほとんど変わらない。なお、職員異動の際は、綿密な引継ぎが行われている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	それぞれの段階に応じた研修が年間計画に基づいて行われている。外部での研修会にも積極的に参加している。その報告会が、また、良い研修の機会にもなっている。管理者や経験豊かな職員による指導がきちんとなされている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じ市内にある他の事業者の管理者や職員と定期的な交流会が開かれている。職員同士他のグループホーム見学や来訪があり、良い勉強にもなっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
	しよ	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にデイサービスの様な形で利用してもらい、雰囲気馴染んでもらっている。また、生活歴を十分に把握し、できるだけ在宅時と同じ様な生活リズムで過ごしてもらっている。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
	13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家族的な雰囲気の中で、入居者を長い人生を過ごしてきた先輩として尊敬の念を持ち、自信や達成感に繋がる言葉かけをしている。郷土料理、針仕事、食糧難時代の食事等、色々と職員が教えてもらう事も多い。	
<b>III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
	14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族からの要望や情報だけでなく、入居者の担当者が中心になって、何気ない言葉や表情、行動からも、思いや意向の把握に努めている。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
	15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	諸情報を収集し、入居者の視点に立った介護計画案を作成している。そして、入居者、家族、職員による会議を開き、具体的な介護計画が作成されている。地域との関わりを重視した計画でもある。	
	16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	計画に沿った評価がきちんと行われ、定期的な見直しが行われている。また、随時、入居者の状況の変化に応じた見直し案が検討されている。家族の了承を得て、計画が見直されている。	

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	医療連携体制加算を活かして、健康管理の強化を図っている。入居者や家族の状況に応じて、通院の送迎、生家へのふるさと訪問、外泊への支援など柔軟に対処している。また、ホームが地域での福祉交流の場ともなっている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者や家族の希望で入居前のかかりつけの病院を利用している方が大半である。受診に際しては、出来るだけ家族にも同行してもらい、主治医から直接、病状等を説明してもらうように支援している。往診依頼にも応じてもらっている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に病状急変への対応や「看取り介護基準」を説明し、話し合っ、承諾書ももらっている。実際に、看取り介護の事例もあった。	○	看取り介護の方法等について、ADLの取り扱い方を含めて、繰り返しての具体的な教育の必要性が反省され、重度や終末期のケアに必要な備品等の整備も検討されており、支援体制の更なる充実が期待される。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	一人ひとりの誇りや人格を傷つける事がないように、言葉かけや支援に当たっては十分に配慮している。個人記録等の情報管理は、管理規程に基づいて管理されている。入居者の写真の掲示も家族の了承を得ている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	朝食が済んでゆったりとした気分の時に、その日の過ごし方について入居者の希望を聴き、個別に対応している。職員は、ゆっくりと待つ事を基本にしており、起床や就寝等の時刻も自由で、入居者は思い思いに一日を過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も同じ食卓と一緒に食事を摂りながら、それとなく見守ったり、会話を交わしたりしている。入居者と一緒に野菜の下ごしらえをしたり、食器に盛り付けたり、食器を洗ったりしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	毎日、入浴が出来る様に準備がしてある。入浴時間帯や入浴時間も入居者の希望に合わせてゆっくと入浴してもらっている。一度入浴して、夜に再度入浴を希望される方もあり、その場合は足浴してもらっている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとりをよく把握し、料理、野菜作り、花の手入れ、その他たくさんの役割があり、職員は感謝の言葉をかけながら一緒に支援している。書道、歌、縫い物、季節の漬け物や干し柿づくりを楽しむ方もある。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	一人ひとりの希望に応じて、近くの山里を散歩したり、季節の花や山菜摘みに出かけたりしている。また、食材の買い出しに一緒に行く方もある。車椅子の方も戸外での日光浴等の支援が行われている。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	玄関や外との段差のない居室は、昼間は何時でも自由に出入りが出来る。鍵をかけることによって起こる入居者の閉塞感については、職員は十分に理解している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難誘導訓練は、実際を想定して実施している。災害対策マニュアルがあり、通報連絡訓練は、繰り返して実施している。地元消防団や地域住民も参加した避難訓練である。消防団から、避難誘導の改善点も指導してもらっている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量と水分摂取量は、毎回、量を記録に残し、個人毎に栄養摂取量やバランスを把握している。検食者は炊き方、量、味付け、色彩、盛り付けの状態を試食によって確認し、一人ひとりの状況や嗜好に合った食事を心掛けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	自然の光が差し込む明るい共用空間である。光量はカーテンで調節している。トイレや浴室は、温度差が生じないように電気ストーブで暖めている。不快な音は聞こえない。台所の流し台は、入居者の身長を考慮して低くしてある。近くの山野から採って来た花が季節感を感じさせている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの品物の持ち込みに制限はない。各居室によって、お気に入りの洋服、ソファ、時計、家族の写真、リハビリ用のボール、縫いぐるみ、その他いろいろの物が置いてあり、安らぎのある居室となっている。		